19. 分離手術に成功した Xipho-Omphalopagus の1症例

青柳　博，横山　宏
（君津中央小児外科）
五反田純，磯野史郎，杉森邦夫
（同・麻酔科）
大崎逸郎，中沢明紀，阿部博紀
（同・新生児科）

在胎35週，両児合わせて3,899g にて出生した Xipho-Omphalopagus の手術経験を報告した。術前共有臓器の有無を検査しつつ，計4回の会合を持ち，入念なリハーサルをくり返して，生後93日目に手術を施行した。共有臓器は肝，剣状突起，横隔膜の一部であった。1児に卵巣嚢腫を認め，右卵巣を摘出した。両児とも盲腸の固定不全があり，虫垂切除を加えた。術後経過は順調で両児とも救命し得た。

20. Evitron（RF 加温機）の癌の温熱療法への応用
—第1報　基礎的検討—

坂庭　操，澤口重徳，大川治夫
（筑波大学小児外科）
海老原邦宏，鈴木武雄
（霞ケ浦電子（株））

Evitron は周波数28.28MHz の RF 波誘導加温装置である。本装置を用いて寒天ファントムによって加温 simulation 実験を行なった。ファントムの比誘電率は81，導電率は0.642S/m とした。温度測定はテフロン被覆した0.1mm の銅コンスタンタン熱電対カテーテル電極を用いた。寒天ファントムは中心を最高温部として同心円状の昇温が短時間内に得られた。本装置は Hyperthermia の基礎実験装置のみならず臨床応用も十分可能であると思われた。

21. 退院指導の1事例
—気管喉頭軟化症を合併した食道閉鎖症児の在宅呼吸管理指導—

松井聖子，猪野和子，佐久間鈴子
（千大・看護婦）

先天性食道閉鎖症に，気管喉頭軟化症を合併した5カ月の患児が，気管切開術を受けた。退院に当たり，在宅療養に向けて呼吸管理，栄養管理などの指導を行なった。また，地域社会でのフォローとして，所轄の保健所と連絡をとった。

22. 術後イレウスの検討

飯田秀治（国立習志野小児外科）
香田真一，伊藤文雄，苅部喜一
山本和夫，豊澤　忠，早田浩明
（同・外科）

昭和53年から10年間に当院で経験した小児開腹術は325例で内17例に術後イレウスが発生し発生率は5.6％と他家の報告と同様であった。当院の術後のイレウスは穿孔性虫垂炎後の60例が最も多く，他院初回手術例2例を含め19例に28回のイレウスを経験し5例に手術療法を行なった。発生時期は最短2日，最長9年10カ月で1年以内に14例74％が発生し，5例に複数回の術後イレウスを経験した。

23. 膀胱外反症3例の経験

品田良之，亀ケ谷真琴
（千葉県こども・整形外科）
真家雅彦，江東孝夫，岩井　潤
（同・外科）

膀胱外反症は非常に稀な先天性奇形であり，ほとんどの症例にて恥骨結合離開や股関節の位置異常を合併しており，しばしばその治療において整形外科医の参加が求められる。

今回，われわれは3例の膀胱外反症を経験し，膀胱再建にあたり，うち2例に腸骨骨切り術を施行し良好な結果を得たので，この疾患の整形外科的問題点を中心に報告した。

25. 重症肥満における脂肪代謝

山崎一馬，川村　功，磯野可一
（千大・2外）

重症肥満の外科治療前後における脂肪代謝動態を indirect calorimetory にて検討した。その結果，エネルギー消費量の減少のみならず酸素消費量・炭酸ガス産生量・呼吸商の低下を認めた。体重減少期には脂肪燃焼量は増加しエネルギー消費量の減少にもかかわらず体脂肪は効率よく消費された。

28. ブタ鎖肛における内肛門括約筋の発生

大川治夫，池袋賢一，松本正智
坂庭　操，金子道夫，越智五平
澤口重徳　（筑波大小児外科）

胎齢20～60日の正常及び鎖肛の胎仔を用いて鎖肛の発